

超大容量遠心機を開発

バイオ医薬 プロセス向け 1回で1200処理

サーモフィッシュャー

サーモフィッシュャーサイエンティフィックは、研究開発から製造までのバイオ医薬プロセス装置における事業展開を強化する。今回、1回で1200の処理能力をもつ世界最大規模の超大容量高速遠心機を開発、市場展開に乗り出した。近年、医薬品業界では抗体医薬・ワクチンなどのバイオ医薬品市場が急成長し、開発競争が激化。同社は新製品を軸に培養から培地、大量培養、精製工程まで、トータルソリューションで展開できる強みを生かし差別化戦略を加速する。

トータルシステム提案

サーモフィッシュャーバイオ医薬品プロセス全体を通じて、最適なソリューションを展開中。とくに抗体医薬等のバイオ医薬品の研究から製造までのワークフローの基盤技術について、顧客の研究開発スピードの向上、生

産性アップを積極的に支援している。今回、新しく開発し、本格的な市場展開に乗り出した生産・製造向け超大容量遠心機「Sorval RC 12BPプラットフォーム」は、1回の処理能力で1200(200ポット×6本)を実現したものの。既存機種は同600だった。今後、大手製薬企業をはじめ創業ベンチャーなどに年間5〜6台を販売する。また3年後には同20〜30台まで引き上げる意向だ。

新製品は最大遠心力が7340×グラムで、最



高回転数が4700rpmで、大容量のバイオ医薬品原薬の粗精製システムに最適。

に適合する。また高い遠心処理能力により、製造プロセスにおける分離・精製工程の生産性を高め、原薬の完全性を確保した。

さらに最新のディスプレイ表示により操作が簡単で、11段階の加速・減速が選択でき、セキュリティソフトを標準装備した。GMPなど品質管理システム対応のため遠心処理工程の管理とトレーサビリティを保証している。

新製品攻勢
精製工程において1回に1200の固体と液体を分離できる

に加え、同社では開発から生産までバイオ医薬品プロセスにおける、さまざまな機器や消耗品などを提供する一方で、顧客支援を充実させる考えだ。

主なアイテムは、細胞培養の研究開発向け接着細胞および浮遊細胞用の各種培養容器やシェーカー、培地・試薬向けサブライメントをはじめ、生産向け大量培養(500リットル)のバイオリアクターなど。このほか、精製工程向け大容量高速冷却遠心機、保存用の超低温フリーザー、分析機器として紫外・可視分光光度計など、多様なラインアップを用意し顧客ニーズに応える。